



令和6年10月15日(火)に、立教大学 理学部 物理学科教授 田口真先生による全校生徒対象のSSH講演会が行われました。田口先生は、本校のご出身で、東北大学理学部地球物理学科、同大学院理学研究科地球物理学専攻にて研究されました。その後、東北大学理学部助手、国立極地研究所助教授、JAXA宇宙科学研究所客員教授をご経験され、現在立教大学理学部教授、国立極地研究所客員教授をされております。日本初の火星探査機「のぞみ」に搭載された紫外撮像分光計の開発に携われたり、第42次日本南極地域観測隊員としてオーロラを観測されたり、月探査衛星「かぐや」超高層プラズマイメージャ副主任研究者や、金星探査機「あかつき」中間赤外カメラ主任研究者を勤められる等、様々な活動にご尽力され、大変素晴らしい成果を残されています。

講演は「金星への旅」と題し、惑星・宇宙科学、惑星大気やオーロラについて、田口先生の高度な研究内容をお話いただきました。金星探査機搭載赤外カメラによる金星大気ダイナミクスの研究を中心に、人工衛星と惑星探査機の違いや、「あかつき」の開発・運用に携わる方々のお話もあり、大変勉強になる有意義な講演会となりました。

これからの社会に必要とされる力や、イノベーションを創出するために必要なことを考えることもできました。生徒にとっては、将来の自分を見つめる機会にもなったようです。今後、生徒それぞれが、自分の探究活動をさらに充実させてくれることを期待します。